

科学教育研究センター紀要発刊に寄せて

愛媛大学教育学部附属科学教育研究センター長 佐野 栄

令和3年度、愛媛大学教育学部に科学教育研究センター（Center for Research in Science Education : CRESE）が新設されました。本センターは、教育学部ならではの、附属学校園や地域の学校等とのつながりを基盤にした、科学教育カリキュラム・教材の開発、拡大する科学教育支援事業に関する組織的支援体制の整備、さらに、科学教育支援事業を通じて得られた各種成果の広報等、様々な科学教育支援事業を組織的に運営することを目的にしています。

現在、科学技術振興機構（JST）による、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業、グローバルサイエンスキャンパス（GSC）事業、ジュニアドクター育成塾事業等、国の科学技術基本計画に沿った複数の人材育成事業が並行して稼働しています。愛媛大学では、上記のJST事業すべてに関与しており、全国的にも数少ない、科学教育活動に積極的に貢献している大学といえます。SSH事業では、愛媛県内において、松山南高等学校、宇和島東高等学校、西条高等学校の3校が指定されており、愛媛大学は、すべての高校の事業の運営指導に携わり、さらに研究活動を支援しています。ジュニアドクター育成塾は平成29年度から、GSCは平成30年度から指定を受け、両事業共に活発に次世代の科学人材の育成に取り組んでいます。そして両事業共に今年度がJSTからの支援の最終年度となります。

教育学部では、主にジュニアドクター育成塾の運営を中心に行ってきました。県内外の小中学生を対象に、応募者の中から、第一段階約40人を選抜し、年間約20回の講座を開催してきました。この中から更に第二段階の個別研究活動に取り組む約10人を選抜し、子どもたちの自発的な探究心や想像力の伸長に努めてきました。今後は、ジュニアドクター育成塾を修了した子どもたちが高等学校に進学し、GSC事業或いはその後継事業にエントリーして、更なる探究活動に取り組み、その後、愛媛大学に進学するような人材に成長することを期待しています。

一方、愛媛県教育委員会・県総合教育センターを中心として運営してきた、えひめサイエンスリーダースキルアッププログラム事業（平成27年～平成29年の3年間はJST支援事業）にも教育学部を中心とした愛

媛大学教員が深く支援に携わってきました。この事業には、県内の高等学校生徒と教師が、毎年数百人規模で関与し、県内でも最大規模の科学人材育成事業として運営され、JSTからの支援終了後も、活発に高校生の科学的探究活動に貢献し続けています。

上述のように、愛媛県内では、初等・中等教育段階における科学教育事業が複数稼働しており、これらの事業が有機的に結びつくことによって、より質の高い次世代科学人材の育成が期待できます。愛媛大学では、令和4年度、県内のSSH、GSC、ジュニアドクター育成塾の3事業、さらにこれらの後継事業を組織的に運営するために、次世代科学人材育成室を発足させます。次世代科学人材育成室では、中等教育段階から科学的資質に長けた人材を組織的に育成することを通じ、愛媛大学への、主に理系学部への進学の道筋を広げていく予定です。

さらに教育学部附属科学教育研究センターでは、大学の次世代科学人材育成理念を踏襲しつつ、これまでに培ってきた愛媛県内の各種学校、教育委員会、教育センター等との連携実績を踏まえ、これからの科学教育の在り方に関する検討や、科学教育研究のアウトプットを積極的に行っていきます。

本センター紀要は、科学教育研究公開の窓口には位置付けられます。教育学部附属科学教育研究センターの研究活動が広く学校教育現場の先生方に認知されるよう、タイムリーな研究内容の公開に努めていく所存です。さらに、科学教育の充実を一層高めるためには、大学教員のみならず、教育現場の第一線で活躍されている多くの先生方にも研究成果を報告していただき、その成果をより多くの方が共有できるような場にしていく予定です。大学教員、教育現場の先生方を始め、より多くの方に本センター紀要に投稿していただき、広く成果の拡大を図っていきたくと考えています。